

令和6年度 第58回 中学生の「税についての作文」

『税金で笑顔を繋ぐ』

町田市立成瀬台中学校 3学年 中尾 優那

「カヌーを漕ぐのは本当に大変です。でも勉強が楽しいから。家族のために頑張りたい。」

これは、ある番組で南アメリカに住む少年が言っていた言葉だ。私はこの言葉が頭から離れなかった。彼は南アメリカの熱帯雨林に暮らす十三歳の少年だが、彼は毎日学校まで、往復四時間もの通学路を移動するのだ。それも、整備された道路を歩くわけではない。彼はものすごく大きな川を、小さなボートで毎日四時間も漕いでいる。危険な生物の生息はもちろんのこと、嵐に見舞われることもあった。毎日命懸けで学校に行くことは、想像できないほどに過酷なものだと思う。

私はこの番組を見てから、世界の教育について調べてみた。それにとっても衝撃を受けた。調べてみると、世界の約二・五億人もの子供が教育を受けられておらず、そのうち六十%を女子が占めていることが分かった。家が貧しくて授業料が払えない、家計を助けるために働かなくてはならない、というのが主な理由らしい。また、約六人に一人、世界で三・五億人の子供たちが極度の貧困状態にあると知った。では、私たちはどうだろうか。私たちは毎日、当たり前前に学校へ行き、勉強することができる。それは日本の税金によって支えられているものだ。例えば教科書が全員に無償で渡され、六歳

から十五歳までの九年間、皆が平等に教育を受けることができる。また、お金に困っても生活を送れるような支援がある。これにも税金が関係している。日本では社会保障が充実していて、生活が苦しい人やお年寄り、病気やけがをした人まで、全員が生活を保障されている。

私たちにはこの日常が当たり前前に思える。しかし、この当たり前は税金によって守られているのだ。税金はマイナスなイメージを持つ人が多いかもしれない。実際、私も調べて税制度について知るまでは、あまり良いイメージを持っていなかった。しかし今は違う。税金のしくみを知ってからは、その尊さに深く気づかされた。税金によって世代を超えて支え合い、時代を超えてこの幸せな暮らしを未来につなげることができるのだ。

始めの話には続きがある。少年の通う学校には、ある時からスクールボートが来るようになった。多くの生徒が前よりも短時間で登下校が可能になったのだ。その理由の一つに、日本の税金が関係している。日本の税金の一部が、海外の貧しい国々への支援として使われているのだ。税金は、国内にとどまらず、海外にも笑顔と希望を与えていた。

私は将来社会を担っていく身として、世界や日本に今、どんな課題があるのか、何が出来るのかを考えていきたい。税金という一つのしくみから視野を広げ、自分の住んでいる地域やそのしくみ、そして国の行政などについても自ら学び、日本や世界に笑顔を届けられる大人になりたい。